

事業所名： グループホーム やちだもの家北上（1階）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390600229		
法人名	第一商事株式会社		
事業所名	グループホーム やちだもの家北上（1階）		
所在地	〒024-0043 岩手県北上市立花17地割1-2		
自己評価作成日	令和5年9月14日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・「つつがない毎日のご提案」、「安、信、感」を理念としています。安心・安全のための知識や技術向上を目指し、利用者様や家族様から信頼・信用される為に言動や行動に責任を持ち、尊厳を尊重し感謝の気持ちを持って接することを大切にしています。
 ・キャリア形成支援を積極的に推進することで、職員のやりがいや技術向上を支援し、それにより利用者様が安心して生活できる職場環境づくりに努めています。
 ・職員の業務の質、利用者様の対応力等を高める為毎月研修を必ず実施している。その他身体拘束・虐待防止委員会、事故防止委員会、感染防止委員会の話し合いや研修は定期的に行っており、職員間で話し合う機会は多く取り入れている。
 【コロナ過で見合わせ中】地域に向けて開かれた運営とするため、「やちだも歌声カフェ」を企画していました。職員が持ち回りで参加することで様々な資格をもった職員が地域住民と接することができ、楽しい雰囲気の中で様々な相談が気軽にできる機会と考えていました。地域防災訓練や文化祭、運動会など地域活動にお誘い頂く機会も多く、多様な連携ができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、桜で有名な展勝地にほど近く、自然が豊かで心が落ち着く田園と住宅地に囲まれた地域にあり、サービス付き高齢者住宅に併設された2ユニット(2階建)のホームである。利用者支援の柱となる理念に加え行動規範を作成し、利用者がつつがない毎日を送れる支援を心がけ、のんびりゆったりとした空気を大切にしている。隣接する小学校とは、コロナ禍以前には定期的な学習交流が行われ、普段の散歩時は、校庭での授業の様子がつぶさに見学出来る恵まれた環境にある。また、災害時の住民受け入れや、自治区総会や地域防災訓練への参加など、地域との繋がりが形成されている。市内の恵まれた医療機関を活用し、希望の利用者には月2回の訪問診療の提供、週1回看護師の訪問による体調確認と健康管理面での安心感もある。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月29日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「つつがない毎日の提案」「安・信・感」の理念について、入社時や毎月職員会議での研修の場で関連の研修を行うなどしている。事業所内には理念を掲示し、常に職員が確認できるようにしている。	系列グループホームと同じ事業所理念を掲げ、北上の事業所では、更に理念を具現化する行動規範を作成している。毎月開催する職員会議の終了時には、この行動規範を職員が交代で復唱している。事業所内のホールには、利用者にも目につきやすいよう、社是と今年度の行動目標も併せて掲示されている。施設長は、理念の実践化が年々向上していることを実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設として自治会に加入し、地域行事や敬老会、防災訓練などへ利用者・職員が参加できるように努めている。また小学校の運動会や学習発表会にお招きいただいているので、可能な限り交流の機会をつくっている。	自治会に加入することで、市の広報紙が届き、回覧板回しも行っている。施設長が自治会の幹事となっている総会に参加している他、自治会長さんと共に音楽バンドを組み、地域のイベントで披露している。事業所に隣接して、東桜小学校があり、コロナ禍以前には福祉体験に来所し利用者や交流していた。コロナ禍の今年度は、七夕の時期に学校側で短冊を作り、利用者が願い事を書いて学校側に渡すかたちでの交流を行った。慰問等はこれまでに60団体程を受入れ、系列事業所の縁で、盛岡の高校生との交流も行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア・介護の専門家として、有事の際の認知症・障害をもつ住民の受け入れや専門的な物資の提供などが可能であると地域防災組織に組み込まれている。地域防災訓練へもそういった位置づけで参加することで周知されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度の開催についてはコロナウイルス等感染症への配慮として文書照会か対面開催をしている。意見照会票の中でご意見を頂き運営に反映させた事項もあるが、対面開催では共用部分で実際の様子を見ていただけるので説明が伝わりやすく、意見交換も活発になっている。	通常の開催場所は、1階ホールを利用しており、複数の利用者が参加することもある。委員の任期は1年で、地域の代表者として、社会福祉協議会の(支所)職員にも依頼している。会議資料は、利用者の状況や、運営状況、ヒヤリハット等細かく作成されており、会議録も丁寧に作成されている。書面会議時も、各委員が回答しやすい照会書面で確認している。8月の通常開催時には活発な意見交換が行われた。	事業所の運営向上には、様々な視点からの意見や協力をもらうことが大切です。地の利を活かし、小学校やこども園、老人クラブ等や関係機関(警察、消防)からの参加を期待します。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法改正に伴う質疑や、運営推進会議の構成員として意見を頂くなど定期的に運営について助言を頂く機会を持つことができている。事故発生時には速やかに報告を行い、必要時は指導を仰いでいる。ゆうあい健康祭り等の行事でご協力させて頂く等貢献を目指している。	運営推進会議の委員には、市役所職員と地域包括支援センター職員が1年交代で参加しており、今年度は、長寿介護課職員に委員をお願いしている。照会や生活保護受給者入所中の確認連絡は、主に電話で行っている。制度改正時等の行政説明は、FAXにて資料が送付されている。地域包括支援センターとは、主催の認知症カフェへの参加や、入居や退去者の相談等で随時連絡をとり合い、顔の見える関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置。議題については運営推進会議で共有し、意見や助言を頂ける様にしている。身体拘束適正化に係る指針を整備し、委員会メンバーを中心に入社時や職員会議時に研修を行い、理解を深めている。認知症の症状や転倒等事故発生リスクの高い入居者に対しセンサー等を使用しているが、ご本人やご家族へは使用前に確認を行い、本人の行動を妨げるものではないことを職員とも共有している。	身体拘束適正化委員会の委員は、専任担当者と数名の職員で構成し、委員は1年毎に交代している。職員研修は、委員が企画し、今年度は、日常の介護場面での「不適切と思われるケア内容」等の気づきを出し合い対応策を検討している。会議や研修を重ねることで、利用者へのやさしい声かけや声のトーンが変化してきている。離床センサーは1階で4名、2階で3名が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置。事業所内外の例を参考に、見過ごしの内容に注意喚起している。虐待防止に係る指針を整備し、委員会メンバーを中心に入社時や職員会議時に研修を行い、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業での金銭管理サービスを利用されている入居者はいないが、必要時には北上市の権利擁護センター等の情報提供を行えるよう情報収集を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明も含め、本人や家族等の不安や要望について聞き取りを行っている。特に、看取りについては実施していないので、医療の支援が必要になった際等次の施設類型でのお住まいの提案をすること等もお伝えしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者(ケアマネジャー)やユニットリーダーを中心に家族来所時には、ご本人の様子やご家族の意向を細やかに確認する機会とするよう努めている。頂いたご意見については「やちだも通信」等も活用して開示していくことを想定している。運営推進会議の会議録は閲覧できるようにしているが、面会制限をかけている中ではご家族の閲覧に至らないことが課題と考えている。	ご家族から運営に関しての意見や要望はないが、コロナ禍での面会制限中、解除時期の照会や面会再開等の要望が多く出されてきた。2年前までは、ご家族に運営推進会議の資料を送付していたが、現下はファイリングし、玄関で自由に閲覧できるものの、面会の制約により確認機会が少ない。事業所より毎月ご家族に送付する「やちだも通信」には、今月のベストショットとして利用者のカラー写真が1枚添えられた状況報告があり、ご家族にとっても好評で、感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談・相談等は臨機応変に時間をとるよう努めている。職員会議で意見収集したり、個別に相談のあった案件について検討するなどして、業務の適正化・効率化に努めている。	統括管理者は本部より週3回程度来所し、年度初めには、職員全員の個別面談も行っている。個人面談や相談は、職員自身の私的な相談もあるが、勤務中の気になる介護事例について、相談や意見もある。離職職員は殆んど無く、統括管理者より、職員満足度も少しずつ上がっているとの報告があると施設長より聞きとった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件に沿って評価し、給与等に反映させている。職員の勤務状況や取り組みの姿勢を評価し、役職への転換や、リーダーの任命等を行っている。個々の家庭の環境等に配慮し、勤務の仕方や休み希望等できるだけ反映している。有給消化管理も厳重にしている、漏れなく消化できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、入社時の研修や、不定期で行われる系列施設での研修を通じて技術等のトレーニングの機会としている。法人外で実施される研修については、所有している資格等考慮しながら積極的に職員を派遣している。本人が希望する研修や資格取得について、勤務状況・費用面配慮している。毎月会議の後に必ず研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者によって開催されている「ケアカフェ」「ケアラボ」といった交流勉強会や、地域包括支援センターで企画されている圏域内研修へ参加し情報共有している。事例検討会にも職員参加し、「展勝地カフェ」での企画と実施等をして、地域での参加もすることにより意欲向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集は前任のケアマネジャーや相談員からだけでなく、家族への聞き取りも積極的に行っている。入居後は慣れない環境での生活に困惑される方が多いので、寄り添い、よくお話を伺うなど交流の機会を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人へ配慮してほしいことや意向などの確認の際に、家族が配慮してほしいと思っていることがないか(連絡をする頻度や、本人からの連絡、伝えて欲しくないことなど)も聞き取りを行い、対応の可否を検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス付き高齢者向け住宅や共用型デイサービスも提供していることから、ご本人の状況やニーズに合わせて提案を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位であるかどうか常に考えるように心がけている。日常生活上の動作や意思決定は、体調や気分により変わることがあることを念頭におき、お願いの仕方や促し方の工夫を共有・検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や日用品の買い物など対応が可能な場合はご家族に依頼している。コロナ禍でご本人との面会ができない状況では、職員と家族が話をできる時間を大切にし、情報・状況の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の希望があれば事前に連絡していただき感染症対策をしたうえで面会していただいた。通院のついでに自宅に戻り昼食を取る方もいる。葬儀などで外泊される方もいた。遠方にお住まいの方はビデオ通話で面会していただいた。	利用者の兄弟姉妹やお子さん方は、ご家族と一緒に来所し、お孫さんは、都合の良い日に1人で来ることが多い。馴染みの人や場所について、職員は利用者全員の状況を把握している。農家だった方が、事業所近くにある職員所有の畑を借り、野菜づくりをしていたケースもあり、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。現在は、月2回来所される訪問診療医師、週1回来所される訪問看護師、隔月でお世話になる理容師等の訪問者が馴染みの人となっている。	

事業所名：グループホーム やちだもの家北上（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格等最大限考慮している。話しかけても耳が遠くて聞き取れなかったり、内容がうまく伝わっていないときは間を取り持ち会話が長くように支援している。茶碗拭きなどの作業は、協力している姿が見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で利用が中止になった場合でも、相談に対応している。帰所が困難な場合、病院の相談員等と連携し、スムーズに退院支援が行われるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者からの発言や要望など、職員が受けた際にはユニットリーダーや介護支援専門員と共有し、必要時はケアプランに反映させている。また会議では入居者についてカンファレンスを実施している。	理解力が低下し、意志疎通が困難な利用者が1階ユニットに1名いるが、わかりやすい言葉でゆっくりと簡潔に話すことで、時々の外れのこともあるが「嫌です、わかりました」等の返事で思いや意向を確認している。暮らし方の意向や希望の尊重は、介護計画にも明記され、職員間でも共有されている。ある利用者の「漫画を読みたい」との希望に沿いご家族が届けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使いたれた家具や物品を持ち込んでいただく事に制限をしていない。入居前には事前情報を回覧し、職員で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時は業務について口頭での申し送りのために時間を確保し、また申し送りノートを活用して情報の伝達・共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットリーダーや介護員、ご家族から出た意見をもとに担当者会議として意見やアイデアを出し合い、必要時はケアプランに反映したり、軽微な内容でも対応の変更として共有している。	初回介護計画は、入居前訪問による情報を基に、数週間で見直し、次の計画は原則6か月で見直すこととしている。利用者と家族の希望は、計画内にしっかりと記載され、サービス内容には、ご家族の役割や利用者が希望する活動も記載されている。居室担当者は決めておらず、職員会議時には、利用者全員のカンファレンスを行い、アセスメントはユニットリーダーを中心に実施している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートで情報を共有し、会議で対応についてより良い方法や案がないか等議題として取り上げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人様とのやり取りを重ねながら、ニーズに合わせた対応に近づけるように心がけている。現時点では多機能化について積極的に取り組んでいることはない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問や小学校の校外学習の受け入れ、地域行事の参加を通して、入居者と外部(地域)のつながりができるよう心がけている。事業所外の人との交流によって、楽しみや趣味活動に発展できるような場面があれば支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医はそのまま利用していただけよう案内している。その医師が訪問診療を行っていない場合は、訪問診療を依頼している医師を紹介している。診察の際には一部任意様式だが近況などについてまとめ、お渡ししている。	ご家族の協力により、入居前からのかかりつけ医の受診を継続していただいている。最近、家族の高齢化等により、訪問診療に切り替える利用者も増えており、月2回の診察を受けている。現在入居者15名中、1階2階それぞれ2名が入居前からの主治医を受診している。訪問歯科診療は、義歯破損等の対応を協力歯科医に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内看護師と、週に1回来所の訪問看護事業所とで情報共有し、経過を見て頂いている。主治医に相談するか否かなどの助言や、応急処置、とんぶく薬の使用判断など電話などでも指示を仰ぐことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が決まり情報提供が必要な場合には速やかに対応している。また、入院期間の情報確認を密に行い、退院後の生活はが可能かどうかなど、家族を含む関係者と検討を行えるようにしている。		

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については契約時に説明を行っている。終末期・お看取りについては専門職の比率や施設設備上からも対応しない方針であることも入居前に伝えている。介護度が高くなった場合や、心身の変化があった場合にはご家族の希望や状況の共有を密に行いながら、住み替えの提案や情報提供を行っている。また、次施設が決まるまでは、主治医や訪問看護の協力を得て介護を行っている。	看取りについては実施しない方針であるものの、次の施設等の受け皿へ移行できるまでは、事業所内での支援を継続している。重度化対応の指針を作成し、ご家族に説明の上、同意を得ている。移行施設は特別養護老人ホームが多いが、市内には介護付有料老人ホームや終末期に特化した受入れ施設もあり、比較的円滑に移行出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や事故発生時のマニュアルは整備している。避難訓練は2回/年実施、AEDは増設し各フロアに配置となった。取り扱いについては定期的に訓練を行っていたが、コロナ渦であった令和4~5年は実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生の避難訓練は2回/年、また地域で実施される水害や災害に対する訓練に参加した際には併せて事業所内でも独自の訓練を行っていた。地域の要支援者の受け入れが可能な施設として地域防災計画に位置付けられている。	ハザードマップ上の危険は無く、年2回の事業所独自の避難訓練の他、地域で開催する防災訓練にも事業所として参加する機会がある。3.11後に開所した事業所は、オール電化設備で、停電を想定した訓練や必要備品等の確保は不十分である。また、複数の夜勤専任者対象の訓練は、これまでも実施してきているが、十分とはいえない。	夜間の避難訓練に加え、停電想定での訓練が必要と思われる。停電時の行動計画の整備や、自家用発電機、ストーブ、毛布等の必要物品の確保と、冬場や夏場のミニ訓練など、地域の協力を得ながら、計画的に進められたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳が軽視されないことがないよう、日々の声かけ(言葉遣い)や私物の管理を行っている。虐待防止委員会を中心に指針の整備や研修を行っている。個人情報について、個別のファイルは鍵付きのキャビネット、その他はパソコンでの管理となっている。	入居後の慣れ親しんだ関係醸成後も、敬語を用い、同じ苗字の利用者が多いことから、呼名は「下の名前」にさん付けとしている。行動指針に基づき、「軽々しく非難しない」「否定しない」「ありがとうございます」等の基本姿勢に留意している。事務室とホールの仕切りはオープンカウンター式で、利用者に関する話題は、小さな声で話したり、ホールから離れて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどのようにありたいのかを言動や行動から読み解き、対応できるよう心がけている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者へ「提案」はするが、最終的な決定はご本人や家族が行えるように心がけている。それによって起こり得る危険やリスクがある場合には本人やご家族へ説明し、協力を仰ぐなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が気に入っている衣類や小物などご家族と共有し買い足しの参考にしてもらっている。本人が着用を希望した衣類については思いを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接するサ高住に厨房があり、外部業者に給食業務を委託している。禁食や嗜好など細やかに対応されている。お膳の準備や盛り付け・片付けは、入居者と一緒に行っている。	季節感を味わう行事食を提供したり、利用者自身が楽しめる手作りおやつ企画、プランターで育てた収穫物(トマトやスイカ)を頂く等の機会その他、秋には屋外でサンマを焼いたり、芋の子汁を提供している。また、利用者の好物である「餅」を、のどに詰まらせない様「豆腐」で作る等の工夫もしている。コロナ禍以前は外食も企画できたが、現在は休止している。2階では食器拭き等を毎日の役割として実践せずにはられない利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食業務委託先の栄養士によって献立が作成されている。食事摂取量や体重の変化がある場合は、看護師や主治医に状況共有を行い、経口栄養剤など処方されるなどして、必要量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で行える方も多いが声かけや見守り・仕上げを行い、口腔環境が維持されるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で習慣を把握し、トイレ誘導のタイミングなどの参考にしている。	両ユニットとも、ポータブルトイレの利用者は無く、二人介助が必要な利用者や夜間のおむつ利用者もいない。利用者が出来ることは手をかけずに、トイレでの排泄支援を心がけている。夜間帯は、睡眠を優先し、日中より大きめのパットを利用する方もある。頻尿で頻りに起きる利用者の見守りは、その都度行っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便状況を記録している。飲食物での工夫は水分摂取を促す程度であるが、便秘時の腹部マッサージの仕方等は看護師から指導を受けるなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴としている。基本の入浴予定はあるが、本人の気持ちや体調の変化に配慮し、臨機応変に対応している。足浴や陰部洗浄、清拭更衣など	両ユニットとも浴槽は一般浴槽で、9人の利用者を3グループに分け入浴していただく。1階ユニットで実施しているデイサービスは午後入浴で、利用者のその日の入浴は午前としている。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、以前入居していた毎日の入浴希望者は、希望通り対応していた。脚にむくみのある利用者には足浴をしたり、水虫の薬を塗る前には、温タオルで清拭をする等のきめ細かい配慮で、利用者は「気持ちいい」と話してくれている。入浴はマンツーマンの介助で行われ、職員は湯船で歌い出す利用者と一緒に歌ったり、普段は話すことのない話の聞き役になる場面もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息は本人の意向に任せ、水分補給や体調確認のために声掛けをさせていただいている。レクの準備ができたなら活動を促すが、意向を尊重している。日中の過ごし方から、夜間排泄の為に声をかける場合と安眠を優先する場合を会議などで検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状や内服薬の変更などは必ず申し送りノートに記載することとしている。変更により考えられる効果や副作用などについての情報を看護職員から申し送りをしてもらうことで、職員が変化に気づきやすくなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	TVに映し出している体操やカラオケ、塗り絵や、入居者の仕事歴や好みに応じたレクリエーションを実施している。食事の嗜好や食べられない物の除去など比較的柔軟に対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は少ないが、近隣への散歩や外出の希望があれば対応している。意欲低下があっても、体調みながら車いすを利用して外へお連れして喜んでいただくこともある。昨年度はみちのく民俗村に紅葉ドライブにでかけている。	両ユニットとも、事業所周辺への散歩には、マンツーマン対応で15分程度出かけている。散歩中は、隣接小学校児童の屋外活動の様子を楽しむことができる。外出時に利用出来る車椅子も十分あり、系列事業所からハイエースを借り上げて、ユニット毎のドライブも可能である。今春には、展勝地や江釣子方面へ出かけ、今秋は、みちのく民俗村へのドライブを予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭であれば自己管理として頂く前提で所持が可能としている。表の自動販売機で職員と一緒に飲料を購入する入居者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり取次ぎは、特別な事情がない限り制限せずに対応している。手紙が書ける方は、切手などの物品をご家族様に準備していただいて、職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品や物品の配置に配慮し、動線の妨げになったり不快感を与えることのないように留意している。季節ごとの飾り付けなどは入居者も一緒に行っている。日差しの状況や温度などは入居者の意見を確認しながら臨機応変に対応している。	共有スペースの食堂兼ホールの東側には、縦長の窓が複数あり、眺めも良く、朝日も差込み、管理者は午前中はとても明るいと話す。ホールからトイレや各居室に移動する廊下も広く、車椅子利用者がすれ違うことも可能である。食事や活動を行うテーブルは2つ設置され、その近くにはソファが置かれている。動線に配慮して、テレビは薄型で壁に設置されている。両ユニットとも新聞があり、調理室脇の収納ケースに入れられている。ホールには、エアコンと空気清浄機、冬期間には加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にテーブルと各自の席があるが、別にソファやホールの応接スペースなどでくつろがれる入居者もいる。入居者同士で話をされている時などは職員が間に入ることができるよう見守りを行っている。活動内容によっては席を変えて行うこともある。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家北上 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、布団など使い慣れた物の持ち込みをうながしている。	居室には、エアコン、ベッド、クローゼット、洗面台が備付けられ、照明は、手元が良く見えたり心が落ち着きやすいよう、調色(白色系か黄色系)の切り替えが可能である。自宅からは、歩行器やぬいぐるみ、高級タンス、家族写真等が持ち込まれている。また以前には、位牌やリクライニング車椅子等の持ち込みもあった。両ユニットで約1/3の利用者にテレビがあり、ラジオや携帯電話を持ち込む利用者もいるが、携帯電話は時間の経過とともに利用頻度が減り、解約する場合が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エアコンのリモコンについては職員が管理しているが、調整してほしいと要望あれば対応している。テレビはご自身で操作していただいております。たまに支援することもある。手摺の設置箇所を増やすなどして自立した生活をしていただけるよう検討を重ねている。		